猿ヶ馬場山、帰雲山

【日程】2021 年 2 月 27 日（前夜発）
【エリア】飛騨山地
【形態】山スキー
【メンバー】Ｙ、Ｏ
【報告】O、Y

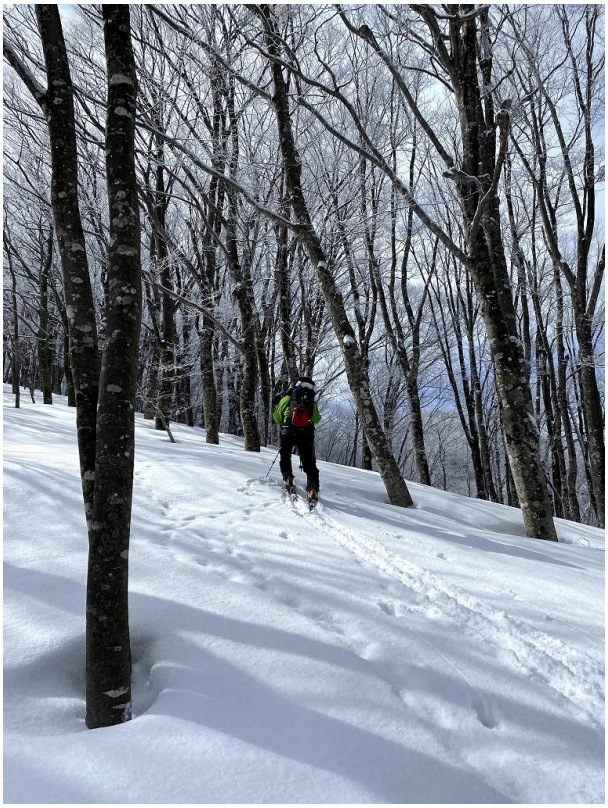
≪ルート／タイム≫
　２月２７日　駐車地 07:10～帰雲山(13:40-14:50)～駐車地 17:15

≪報告≫
新型コロナウィルスの影響が長引いたこともあり、２０２０年のスキーシーズンはほぼ中止。２０１９年冬以来の山スキーとなった。

前夜のうちに白川郷道の駅に到着し仮眠をとる。
出発地は村営せせらぎ公園駐車場となるが、朝が早かったのか閉鎖されている。仕方なく、使われていないと思われる施設の駐車場をお借りしスタート。

猿ヶ馬場山へはロングルートとなる。明善寺という立派な合掌造り寺院の横を抜けながら林道の入り口でスキーを履く。ここからは林道を途中トレースしながらも谷筋沿いに１０００Mほどまでハイクアップしていく。まだ朝の気温が低く、雪質は固い。途中、リスが遊んでいるのか間近で４～５匹目の前を駆け抜けていった。

１０００Mで再び林道に合流する。まだ完全に天候は晴れていないが、少しずつ日差しが入ってくる。新雪に覆われた雪質で快適なハイクアップとなる。林道と途中で別れ、P１１７８に向かって再び尾根を目指す。このあたりからは灌木もまばらとなってくる。



（１２００M付近をハイクアップ）

Ｐ１４５０付近で昼食。私は久しぶりの長時間のスキーブーツにより足のむくみがでてきた。Ｙさんに猿ヶ馬場山までの先の行動をお願いし、お互いに帰雲山で合流とした。

P１４５０を超えると、なだらかな斜面が帰雲山直下まで続く。気温も少しずつ上昇し、雪に覆われた白銀の山々が全貌をみせる。P１５２８手前に鍵の掛かっていると思われる小規模の小屋をみつけた（アンテナ小屋との情報もある）。

（１５００M付近、なだらかな山域に小屋が見えてくる（写真奥））

（帰雲山付近から猿ヶ馬場山の方向を眺める。飛行機雲がはっきりと見える）

帰雲山は頂上には標識はない。由来は雲がこの山に当たると逆流して帰っていったという言い伝えによるとのこと。”かえりくもやま”と読む。帰雲城も存在していたようで調べていくと興味深い。

頂上で１時間１０分ほど待ったころ、Y さんが猿ヶ馬場山から戻ってくる。１４時５０分、下山開始。帰雲山を滑り切ったところからはしばらく上り返しのため、シールを再び履く。

１５２８Mあたりまで戻ってきた後はスキーで登山口まで格好。雪質は日差しの当たっている１２００M付近までは良好。１０００Mから登山口までは登ってきたハーフパイプのような谷筋をひたすら下る。日差しが当たっていないため、ガリガリ君だ。

７５０Mあたりまでスキーで降りてきたものの、さすがに疲れてしまい残り２００M近くは板を担いでおりさせて頂いた。１７時３０分ころ駐車地へ戻る。

猿ケ馬場山：報告 Y

O さんは帰雲山までとし、私は猿ケ馬場山を往復させてもらう。帰雲山と猿ケ馬場山との標高差は 250m ほどであるが、なだらかであるため距離はある。天気は快晴となったが気温は低い。帰雲山を過ぎると右手奥になだらかな猿ケ馬場山頂が見えてくるが、昨夜積もった 10cm ほどの雪が重く、なかなか近づかなかった。上部は針葉樹の疎林となり、ほとんど平坦であり最高点は最も奥であった。登って分かったのだが、猿ケ馬場山は白山と北アルプスの間にある山では最も高いため、素晴らしい眺望であった。東は御嶽山～北アルプス北部まで見え、北の端に黒い三角形の剣岳が白い稜線上に見えている。西は三方岩、野谷荘司、そして白山の雄大な姿、なぜここが三百名山かと思う。

写真撮影の後、シールをはずして滑降開始。まっさらな白い斜面を滑り下りるのは、まさに山スキーの醍醐味であろう。帰雲山で O さんと合流し、滑降を続ける。最後はガリガリの斜面となったが、激しい振動に耐え最後までスキーを履いて下りた。

帰雲山　12 時 30 分　猿ケ馬場山　13 時 48 分　14 時 10 分　帰雲山　14 時 40 分

猿ケ馬場山が奥に見えてくるが遠い

平坦な猿ケ馬場山山頂部

雄大な白山